# デイリー・マーケット・レポート

東京市場デイリー・レビュー／2026 年 10 月 19 日(月)　発行：ていネコの投資ノート

【本レポートの時点】株価指数・国債先物・利回りは 2026 年 10 月 19 日(月)の大引け確定値。東証プライムの売買代金・売買高と騰落銘柄数は大引け概算値。米国市場は 16 日(金)、上海総合は 19 日 14 時 09 分時点。

## 1．本日のサマリー

■ 日経平均株価は 64,916 円 70 銭(前週末比 407 円 59 銭安、−0.62%)と反落。朝方は前週末の米半導体株安を映して一時 1,492 円 51 銭安の 63,831 円 78 銭まで売られ、取引時間中としては 9 月 17 日以来 1 カ月ぶりに 6 万 4,000 円を割り込んだが、後場は下げ幅を 4 分の 1 近くまで縮めた。

■ 下げの主因は AI・半導体関連に集中した。16 日の米 SOX 指数は 3.83%安の 11,137.29 と 8 営業日続落で 2008 年 10 月以来の長い連敗。東京エレクトロンとファーストリテイリングの 2 銘柄で日経平均を約 281 円、ソフトバンクグループを加えた 3 銘柄で約 362 円押し下げた。

■ 一方で TOPIX は 4,067.48(1.48 ポイント高、＋0.04%)と 2 日続伸し、33 業種中 21 業種が上昇。原油高を映した鉱業・石油石炭・海運が上位、非鉄金属・電気機器・繊維製品が下位と、典型的な「値がさ株主導の下げ」となった。

■ 材料面ではトランプ米政権が対ロシア制裁の一部を一時停止すると伝わり、アジア時間の原油先物が反落。中国の 7〜9 月期 GDP は前年同期比＋4.5%で政府通年目標の下限。21 日のメタ・テスラ決算と 27〜28 日の FOMC が当面の関門となる。

## 2．主要指標

| 指標名 | 水準 | 前日比 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 日経平均株価 | 64,916.70 | -407.59(-0.62%) | 高値 65,067.80／安値 63,831.78 |
| TOPIX | 4,067.48 | +1.48(+0.04%) | 2 日続伸。21 業種が上昇 |
| プライム売買代金 | 6 兆 7,835 億円 | — | 概算。値上がり 620／値下がり 870 |
| 長期国債先物 | 125.77 | +0.23 | 12 月限。高値 125.88 |
| 新発 10 年債利回り | 2.905% | -0.025 | 3 営業日ぶりに低下 |
| 新発 2 年／5 年／20 年 | 1.884/2.298/3.763 | — | 単位%。30 年債 4.005(16 日) |
| NY ダウ | 52,002.41 | -175.28(-0.34%) | 10 月 16 日。週間 0.7%高 |
| S&P500 | 7,659.44 | -84.62(-1.09%) | 10 月 16 日。週間 1.9%安 |
| ナスダック総合 | 26,140.04 | -572.99(-2.14%) | 10 月 16 日。週間 4.5%安 |
| SOX 指数 | 11,137.29 | -3.83% | 10 月 16 日。8 営業日続落 |
| 米 10 年債利回り | 5.073% | +0.015 | 16 日。2 年債は 4.708% |
| 韓国 KOSPI | 5,768.01 | +1.76% | 19 日終値。寄付は 3%超安 |
| 上海総合指数 | 3,722.20 | +0.16% | 19 日 14 時 09 分時点 |
| ドル円 | 158.09 | +0.07 | ユーロ円 177.48(-0.10) |
| WTI 原油 | 101.70 ドル | +3.73(+3.81%) | 11 月限。16 日。6 営業日続伸 |
| NY 金 | 4,189.12 ドル | +19.02(+0.46%) | 12 月限。16 日の清算値 |

## 3．株式市場

### 寄り付き〜前引け：米半導体株安を丸ごと織り込む

東京市場は売り先行で始まった。前週末 16 日の米国市場で AI クラウドのコアウィーブ(CRWV)の社債が売られ、借入依存の AI インフラ投資への信用不安が再燃したことが引き金である。SOX 指数は構成 30 銘柄すべてが下落し、ブロードコム、マイクロン、AMD、インテルが揃って 5%前後安となった。日経平均は 64,819 円 56 銭で寄り付いた後も下げ幅を広げ、午前 9 時 16 分に 63,831 円 78 銭(1,492 円 51 銭安)まで売られた。

### 後場：押し目買いと海外先物高で下げ渋り

6 万 4,000 円近辺では押し目買いが入り、後場は時間外のナスダック 100 先物が 1%超上昇したこと、寄り付きに 3%超下落した韓国総合株価指数がプラスに転じたことが支えとなって、一時 6 万 5,000 円台を回復した。高値は 65,067 円 80 銭、終値は安値から 1,084 円 92 銭戻している。売買代金は 6 兆 7,835 億円で、15 日の 10 兆円超、16 日の 7 兆 7,000 億円弱から一段と減り、売り手も買い手も勢いを欠いた一日だった。

### 物色：資源・内需へのシフトと、それでも広い売り

業種別では鉱業(INPEX、石油資源開発)が首位で、海運(日本郵船、商船三井)、石油・石炭(出光興産、ENEOS)が続いた。16 日の WTI 原油が 3.81%高と約 1 カ月ぶりに 100 ドル台を回復したことが直接の手掛かりである。下位は非鉄金属、電気機器、繊維製品、証券商品先物。個別ではリクルートホールディングスが日経平均を 35 円 90 銭押し上げて最大の支え役となり、ベイカレント、キオクシアホールディングス、KDDI が続いた。ソフトバンクグループは米警備サービス最大手アライド・ユニバーサルを最大 180 億ドル(約 2.7 兆円)で買収交渉中と伝わったことが売り材料となり、80 円 10 銭分を押し下げた。AI ロボットの導入を見据えた案件と報じられたが、借入に依存した拡張という点でコアウィーブと同じ論点に触れてしまった形である。証券商品先物の下落は、相場の変動率上昇が売買回転の鈍化につながるとの見方を映したものだろう。もっとも東証プライムの値下がり銘柄数は 870 で値上がり 620 を大きく上回っており、指数の戻りに比べて個別の裾野は依然として重い。

## 4．本日の主題：日経平均の下げとTOPIXの上昇を分けたもの

本日もっとも明確に現れたのは、日経平均が0.62%下げる一方でTOPIXが0.04%上昇した乖離である。市場全体が下げた日ではなく、一部の値がさ株が日経平均だけを押し下げた日と読むべきものだ。

寄与度で見ると構図は明瞭だ。マイナス寄与の上位は東京エレクトロン141円58銭、ファーストリテイリング139円97銭、ソフトバンクグループ80円10銭で、この3銘柄だけで361円65銭、下げ幅407円59銭の約89%に相当する。プラス寄与上位20銘柄の合計は140円12銭、マイナス上位20銘柄は543円12銭で差し引き403円00銭のマイナス、実際の下げ幅とほぼ一致する（筆者算出）。TOPIXは時価総額加重のためこの集中が薄まった。

ただし、これを健全な物色の移動と評価しきるのは早い。値下がり870に対し値上がりは620で、全体では売りが優勢だった。21業種の上昇は各業種の大型株が買われた結果にすぎない。SOX指数が直近高値から約16%下げている点を踏まえれば、本日の下げ渋りは買い戻しによる戻りの範囲だろう。

## 5．債券・金利

債券は堅調だった。長期国債先物12月限は125円72銭で寄り付き、安値125円70銭・高値125円88銭をつけ、前営業日比23銭高の125円77銭で引けた。新発10年債利回りは0.025%低下の2.905%、2年債1.884%、5年債2.298%、20年債3.763%と各年限で低下した。

米国債は16日、ウォーシュFRB議長が利上げを示唆せず2年債が0.030%低下の4.708%となった一方、原油高がインフレ期待を押し上げ10年債は0.015%上昇の5.073%、30年債も同幅上昇の5.421%とカーブはスティープ化した。政策金利よりインフレ・財政のリスクプレミアムが意識される形である。

## 6．為替・商品

ドル円は158円台で小動き。東京時間は157円70銭まで下げた後、株価の下げ渋りとともに158円15銭まで戻し158円09銭で引けた。ユーロ円は177円48銭、ユーロドルは1.1226ドル。株安局面でも円買いが限定的だったのは、日米金利差が依然大きいためである。

16日のWTI原油11月限は3.73ドル高（+3.81%）の101.70ドルと6営業日続伸し、約1カ月ぶりに100ドル台を回復した。ところが本日のアジア時間、トランプ米政権が対ロシア制裁の一部を一時停止すると伝わると供給増観測から原油は反落し、ブレントは2%近く下げた。東京の鉱業・石油関連の上昇は16日の原油高を映したもので、翌営業日には逆風に回りうる。NY金12月限は19.02ドル高の4,189.12ドル（COMEX清算値）。

## 7．海外市場の動向

16日の米国市場はNYダウが175.28ドル安の52,002.41ドル、S&P500が84.62ポイント安の7,659.44、ナスダック総合が572.99ポイント安の26,140.04。週間ではダウ0.7%高、S&P500が1.9%安、ナスダックが4.5%安。コアウィーブは約12%安・週間約25%安で社債利回りは15%を超えた。

本日のアジアは底堅かった。韓国総合株価指数は寄り付き3%超安から5,768.01（+1.76%）に切り返し、コスダックも+1.78%、サムスン電子は1.16%高。上海総合は14時09分時点で3,722.20（+0.16%）。台湾加権は−0.65%、豪ASX200は+0.42%、香港は休場。

## 8．直近の推移

| 日付 | 日経平均 | 前日比 | TOPIX | 10年債 | プライム売買代金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 10月13日（火） | 67,777.52 | -1,253.40 | 4,110.67 | 3.005% | 7兆9,640億円 |
| 10月14日（水） | 67,744.29 | -33.23 | 4,096.78 | 3.000% | 7兆4,508億円 |
| 10月15日（木） | 64,425.95 | -3,318.34 | 3,999.34 | 2.890% | 10兆1,401億円 |
| 10月16日（金） | 65,324.29 | +898.34 | 4,066.00 | 2.930% | 7兆6,687億円 |
| 10月19日（月） | 64,916.70 | -407.59 | 4,067.48 | 2.905% | 6兆7,835億円 |

## 9．総括と注目点

本日は、AI・半導体の信用不安を日経平均が値がさ3銘柄で吸収し、その裏で資金が資源・内需の大型株に移った一日だった。安値から1,000円超戻したのは6万4,000円に押し目買いがある証左だが、売買代金は減り値下がり銘柄数も優勢で、戻りの質は「買い直し」より「売り一巡」に近い。前週に3,706円下げた反動の範囲内と見るのが妥当だろう。

- 10月20日（火）：国内で20年債入札。20年債利回りは16日に3.805%まで上昇した後に低下しており、応札倍率とテールが財政リスクプレミアムの水準を測る材料となる。
- 10月21日（水）：メタ、テスラ、IBMの決算と米20年債入札が重なる週内最大の山場。22日のディスコ、23日のファナックの決算と合わせ、AI投資の採算性と実需の強さが問われる。
- 10月27〜28日のFOMCと29〜30日の日銀金融政策決定会合。原油高によるインフレ再加速と、追加利上げの継続姿勢を示した植田総裁の発言を踏まえ、日米の政策スタンス差が為替と長期金利の方向を決める。23日には9月の全国消費者物価指数。

脚注：騰落銘柄数は株探の大引け記事（19日15時32分配信）の値上がり620・値下がり870・変わらず56を採用した。ウエルスアドバイザー（同16時01分配信）は621・873・58としており、後刻の集計で各3銘柄前後増えている。売買代金6兆7,835億円・売買高20億6,192万株は両系統で一致した大引け概算値である。

脚注：寄与度はフィスコ「日経平均寄与度ランキング（大引け）」に基づき、大引け版を別系統で裏取りできず同社1本のみの出典である。上位20銘柄の合計（プラス140円12銭、マイナス543円12銭、差し引き403円00銭）と「3銘柄で下げ幅の約89%」は筆者算出で、実際の下げ幅との差4円59銭は上位40銘柄以外の寄与の合計。10月13日の前日比1,253円40銭安も、10月9日終値69,030円92銭（週間下落幅3,706円63銭から逆算）との差による筆者算出値。

脚注：新発10年債利回りは2.905%を採用（フィスコは2.898%）、米10年債は5.073%を採用（別出典5.081%）、NY金はCOMEX12月限の清算値4,189.12ドルを採用（スポット基準で約4,181ドルとする出典もある）。新発30年債の19日の確報値は未取得のため16日の4.005%を、上海総合は終値が未取得のため14時09分時点の値を掲載した。本資料は生成AIを用いて公開情報を整理・執筆した。出典＝株探、ウエルスアドバイザー、日本経済新聞、共同通信、時事通信、フィスコ、OANDA Lab、みんかぶFX、ザイFX！、Investing.com、Korea Times。

本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。